

序

神奈川県史の近代・現代に関する通史編は、政治・行政と産業・経済に大別して、それぞれ二巻をあてています。

この巻は、そのうちの政治・行政の下巻にあたるもので、大正のはじめから今日までの神奈川県政治・行政を中心に、社会および文化の各分野に関する出来事とおして、県下の時代の推移を叙述しております。

したがって、ここでは第一次世界大戦下から筆をおこし、関東大震災、昭和恐慌、満州事変、日中戦争、太平洋戦争、敗戦、連合国軍の駐留、朝鮮戦争、高度経済成長、その後の低成長と、この数十年間の本県域における政治・行政、人びとの生活、各種団体等の動きをえがきました。

この巻を刊行するにあたり、数多くの調査や困難な執筆および監修にあたられた皆様と、貴重な資料の提供に御協力下さった方々に対し、心から感謝申し上げます。

昭和五十七年三月

神奈川県知事 長洲 一二

凡 例

- 一 本巻は、神奈川県史通史編5近代・現代(2)政治・行政2として、大正初頭(一九一〇年代)から現在(一九七〇年代)までを対象として叙述した。
- 一 人名は、敬称を略し、そのよみは、外国人を含め一般的に用いられているものに従った。
- 一 地名は、原則として、記述されている時代の用例を用い、その下に()で囲んで現在の地名を示した。
- 一 職業や職種の呼称等歴史的用語は、原則として、記述されているその時代の用例を用いた。
- 一 年号は、西暦で表記し、必要に応じて日本年号を()で囲んで示した。
- 一 神奈川県史資料編を引用する場合は、「資料編 11近代・現代(1) 五」のように、巻名と資料番号(資料番号のない資料編はページ数)を示した。
- 一 本巻の編集は、大久保利謙・金原左門が担当し、執筆については、このほかに専門の研究者の協力をえた。監修は、大久保利謙が当たった。

表紙題字 元知事 津田文吾

目次

序

凡例

はじめに

総説―大正・昭和時代の社会と政治の推移―

第一編 大正期

第一章 第一次大戦と県政

第一節 開戦と県民および県行政

一 県民の参戦観……………二七

戦時気分へのたかまり(二七) 不景気な社会状態(二八) 戦時下の横浜貿易への影響(三〇)

二 戦時下の地方行政……………三三

県民への参戦事情の徹底(三三) 戦争と政治的要請(三四) 節約と物資動員(三五)

目次
三 「戦時気運」と産業奨励策……………三六

時局講演会の開催(三〇) 農村の産業振興策(三九)

第二節 大戦下の県政と市政

一 工業化と政治問題……………四

生糸相場の浮沈と工業化政策(四三) 横浜市の工業振興策(四四) 工業化の促進と広がり(四六)

二 実業と立憲意識の広がり……………四六

商工業振興と県会(四八) 商工立市と選挙区問題(四九) 工業化のなかの自治(五二) 横浜市政と県政(五四)

三 立憲政治への底流……………五二

自治権擁護運動(五三) 商工業の振興と刷新派(五九)

第三節 立憲政治と地方改革への動き

一 「国民の政治」への道……………六二

たかまる立憲政治への関心(六二) 政治争点になる地方自治改良(六三)

二 地域ぐるみの環境改善……………六五

工業化と地方利益(六五) 「アミガサ事件」(六七) 「県民本位」にたつ知事の決断(六九)

第四節 米騒動と社会行政の展開

一 米価問題と米騒動……………七三

物価暴騰と生活難(七三) 米価の動き(七四) 米販売の状況(七六) 米騒動と県民の動静(八〇)

二 地方行政の変化……………八二

「思想問題」と行政の強化(八二) 産業振興と社会政策(八四)

第五節 民力涵養運動

一 民力涵養大会……………	六七
自治觀念の強調(六七)	
民力涵養実行要目(六七)	
二 民力涵養実施の事情……………	六九
村の実行要目(六九)	
村民参加の諸行事(六九)	
三 民力涵養運動の実績……………	六七
民力涵養協議会(六七)	
民力涵養計画の特徴と実績(六七)	
第二章 「大正デモクラシー」と社会問題	
第一節 「デモクラシー」下の社会情勢	
一 友愛会支部の成立と発展……………	一〇三
川崎支部の結成(一〇三)	
川崎支部の活動と性格(一〇五)	
川崎支部と争議(一〇八)	
支部の増加と横浜联合会(一一〇)	
支部の衰退(一一三)	
二 ヴェルサイユ講和と世論……………	一一五
戦勝祝賀とシベリア出兵兵士(一一五)	
戦後論の展開(一二七)	
戦後の「世界の大勢」(一二九)	
講和会議と世論(一三〇)	
第二節 普通選挙運動	
一一九一九年から二〇年の普通選挙運動……………	一三三
『横浜貿易新報』の選挙権拡張論(一三三)	
普通選挙と県下の動静(一三五)	
労働団体による普通選挙運動(一三七)	
憲政派の普通選挙運動(一三〇)	
総選挙と普通選挙問題(一三三)	

二	一九二二年から二三年の普選運動	二三四
普選運動の再高揚(二三)	横須賀での普選運動(二三)	横浜の普選断行市民大会(二二)
県下の普選運動の特徴点(二四)		
第三節	教育条件の整備	
一	初等教育の変貌	二四四
就学奨励と出席奨励(二四)	二部教授の増加(二四)	臨時教育会議(二四七)
大正自由教育運動の根拠(二四九)		
二	国民道徳の養成と中等学校	二五二
中等学校制度の変化(二五)	中等学校生徒の増加(二五)	入試競争(二五)
師範学校第二部の増置(二六)		
女子師範の移転(二六)		
三	社会教育と青年団	二六三
社会教育(二六)	青年団の全県連合(二六)	青年訓練所と軍事教育(二六)
第四節	本格化する労働運動	
一	戦後恐慌前後の労働運動	二六九
激増した労働争議(二六)	労働団体の結成(二七)	仲仕共済会と仲仕同盟会(二七)
横浜造船工組合の結成(二七)		
一九二二年の横浜船渠争議(二七)	海員組合の結成(二七)	
二	労働運動の分裂と拡大	二八
横浜合同労組と総同盟分裂(二八)	総同盟神奈川聯合会の結成(二八)	県下の評議会組織(二八)
横廠工友会の労働組合化(二七)	武相労働聯盟の結成(二八)	横浜市電共和会の運動(二八)
横浜労働組合協議会の活動(二九)		

第五節 農村の変化と小作争議

一 大戦後における小作争議の展開……………一九四

 大戦期の農村の変化(二九四) 県下農村の地域的特徴(二九六) 小作争議の開始(二九八) 穀物検査の実施と
 小作争議(三〇〇) 農産物価格下落と小作争議(三〇三) 小作地返還の戦術(三〇四) 小作争議の結果(三〇六)

二 農村社会の変化……………二〇八

 単独小作人組合の組織と性格(三〇八) 系統的農民組合の成立と活動(三〇〇) 地主団体の動向(三三三)
 小作人の社会的進出(三三四) 流動化する青年たち(三三五)

第六節 都市の発展と都市改造運動

一 本格化する都市問題……………二二七

 大気汚染問題の発生(二三七) 難問となったゴミ処理(二三九) 深刻化する住宅難(三三一)

二 都市改造の試み……………二三四

 「新都市論」の提唱(二三四) 社会行政・都市計画の開始(三三六) 神奈川県匡済会の成立と事業(三三九)

第三章 関東大震災と県民・県政

第一節 災害の実情

一 地帯別にみた被害状況……………三三三

 九月一日(三三三) 県内各地の被害状況(三三四) 震害による損害の実情(三三六)

二 災害と県民の動静……………三四

 「朝鮮人來襲」の流言と自警団(三四一) 県下の朝鮮人殺害(三四三) 朝鮮人救護(三四七)

第二節 県下の戒厳令と災害対策

- 一 戒厳令と災害処理の経過(一) 三三
- 戒厳令発令(二五三) 戒厳令施行下の町村(二五三) 治安維持と救恤保護(二五五) 食糧確保と伝染病の発生(二五七)
- 二 戒厳令と災害処理の経過(二) 三三
- 陸軍の配備(二六三) 軍隊の活動(二六四) 災害の復旧(二六五)

第三節 県民の復興作業の実情

- 一 震災復興の組織づくりと町村長会 三六
- 神奈川県復興促進会と震災救護(二六六) 町村財政不足の克服(二七二) 地域復興会の活動(二七三)
- 二 市町村の復興作業の一端 三六
- 横浜市の復興作業(二七五) 復興財源と市民負担(二七九) 川崎市の復興作業(二八一)

第四節 震災後の社会情勢と郡制廃止問題

- 一 思想善導のなかの社会状態 三三
- 震災後の動揺と思想善導(二八三) 社会変化と県民感情(二八五)
- 二 郡役所廃止と町村自治の涵養 三七
- 町村長会と自治権拡張(二八七) 町政と自治観念の普及(二八九)

第二編 昭和前期

第一章 昭和恐慌前後の県政

第一節 金融恐慌の社会への影響

一 行財政問題と社会不安……………二五

 県市町村税滞納(二五) 左右田銀行の休業(二六)

二 恐慌下の県民の社会生活……………三〇

 労働・農民運動の展開(三〇) 不敬発言と県民生活の窮乏(三〇五) 失業問題の深刻化(三〇六)

第二節 不況下の普通選挙の実施

一 普通による総選挙と県民……………三三

 普通と「善政政治」論(三三) 県民の普通観(三五) 第一回普通選挙の結果(三六)

二 県会議員選挙の動向……………三〇

 普通による県議選の動向(三〇) 政党競合と選挙干渉(三三) 政党地図の変化(三四) 進出する批判勢力(三五)

第三節 恐慌と県政・町村政

一 恐慌対策の基調……………三七

 消費節約への道(三七) 経済生活の改善(三九) 公私経済緊縮運動の具体化へ(三九)

二 公私経済緊縮運動の实情……………三三

 村での実践(三三) 運動と農家経済の实情(三五) 生活態様調査からみた運動の効果(三六)

第二章 「非常時局」の展開

第一節 農山漁村経済更生計画

一 昭和恐慌下の都市と農村……………四

二 経済更生計画と運動の推進……………
零細商工業者と労働者の人員整理(三四) 蕪暴落下の農村(三四) 養蚕農家の窮乏(三六) 恐慌下の町村行政(三四九) ……三五一

第二節 満州事変と「国体明徴」運動

一 「時局匡救」のかけの民衆行動……………
「時局匡救」のかけの民衆行動……………三五一

労使の対立とエントツ男(三五) 消費組合と農民組合(三六) 恐慌下世相の推移(三六)

二 準戦時体制への道……………
準戦時体制への道……………三六一

満州事変と在留中国人(三六) 召集の拡大と県民(三六) 非常時局対応策(三六)

第三節 準戦時下の文化と教育

一 教育運動の弾圧と軍国青年の養成……………
教育運動の弾圧と軍国青年の養成……………三七一

県下の新興教育運動(三七) 郷土教育(三七) 教化総動員と教員給与の減額(三七)

中等学校生徒の野外演習(三七) 「左傾運動」の防止(三六) 国民精神総動員の徹底(三六)

二 中等学校進学の道と勤労作業への道……………
中等学校進学の道と勤労作業への道……………三六七

中等学校入試制度(三六) 中等学校の学区制(三六) 集団勤労作業(三六)

第三章 太平洋戦争下の県民と県政

第一節 日中戦争と県民の動向

一 戦時体制への道……………
戦時体制への道……………三九五

「準戦時」下の県会(三五) 戦時体制整備と県民(三九) 軍都建設と周辺農村(四〇)

二 軍需工業地帯の形成	四〇八
運河の建設と電力・工業用水の確保(四〇四)	
経済統制強化と横浜港(四〇六)	
ばい煙と有毒ガス(四〇七)	
三 「聖戦」と労働運動	四〇八
労働災害の増大と労働争議(四〇〇)	
反ファシズムの動きと労働組合の解体(四〇〇)	
第二節 国家総動員と社会状況	
一 統制強化と農村	四一三
戦勝祝賀と消費生活(四二二)	
庶民生活の実態(四二五)	
労働力不足と食糧生産(四二七)	
農業生産確保の諸方策(四二九)	
二 工業地帯の拡大と労働者	四二二
労働者の増加と住宅問題(四三二)	
工業地帯の生態(四三三)	
国防献金(四三四)	
悪化する労働条件と産業報国会(四三六)	
第三節 翼賛政治の状況	
一 戦時下の政治統制	四三六
一九四〇年の県議選(四三〇)	
部落会・町内会の創設(四三六)	
統制と増税(四三三)	
二 食糧統制の強化	四三三
節米と増産(四三三)	
減少する自作農民(四三四)	
「満州」移民(四三五)	
三 軍都の建設と拡張	四三七
軍都建設事業(四三七)	
軍事色を増す港(四四〇)	
四 産業報国会組織の底辺	四四二

特別高等警察と産報(四三) 節米の強要(四四) 労働組合・在日朝鮮人への抑圧(四五)

第四節 戦時下の教育行政・財政

一 小学校から国民学校へ……………四四八

国民学校の成立と天皇の神格化(四六)

市町村義務教育費の国庫負担(四五〇)

ミッション・スクールへの弾圧(四五二)

二 中等学校制度の変更……………四五四

中等教育の総合制(四五四) 学徒動員(四五五) 動員生活(四五九)

三 決戦下の学校と言論統制……………四六二

学童集団疎開(四六一) 疎開先の生活(四六五) 言論の統制(四六七)

第五節 太平洋戦争下の県民生活

一 「聖戦」下の県民……………四六九

「紀元二千六百年祭」(四六九) 太平洋戦争の開始と県民(四七一)

二 食糧増産体制の不安……………四七四

食糧自給と農村の再編(四七四) 米価値上げと貯蓄(四七七)

三 都市機能の低下……………四七八

配給の地域差(四七六) 軍事優先の街(四八〇)

四 「銃後」の総動員……………四八三

生産増強にかけり(四八二) 底をつく労働力(四八四)

第六節 県民の戦争災害

一 戦争破局の状況……………四八八

広がる不穏言動(四八八) 警察統制の強化(四八九) 空襲の脅威(四九二)

二 本土決戦の根拠地……………四九三

食糧の欠乏(四九三) 本土決戦の準備体制(四九五)

三 都市無差別爆撃の展開……………四九六

空襲対策(四九六) アメリカ軍の戦略爆撃(四九九) じゅうたん爆撃の拡大(五〇〇)

四 「終戦」をむかえる県民……………五〇三

戦争災害の地域的特質(五〇三) 広がる逃避と厭戦気分(五〇四) 不安と期待の「終戦」(五〇五)

第三編 現代

第一章 占領・復興期

第一節 連合軍の進駐と神奈川県

一 進駐軍と神奈川県……………五一二

敗戦直後の混乱(五一二) 進駐受入れの準備(五一四)

二 占領下の神奈川県政……………五一八

間接統治のはじまり(五一八) 神奈川県の特異性(五一九) 涉外行政(五三三)

三 占領下の県民生活……………五三七

進駐兵士との事故(五三七)	接收問題(五三三)	占領軍と労働者(五三四)	基地と風俗(五三六)	基地と子供(五三七)
第二節 過渡期の県政				

一 戦後県政のスタート	五三二
-------------	-----

戦後県政の出発点(五三二)	政府施策の浸透(五三四)	一九四五年の県政の課題(五三四)	食糧問題(五三四)
戦災復興(五四六)	県行政の新しい指針(五四九)		

二 変化への胎動	五五一
----------	-----

行政機構の混乱(五二)	町内会の改組(五五三)	戦時指導者への批判(五五四)	政党の動き(五五五)	公職追放令(五五六)
過渡期の課題	五五八			

三 外交官出身知事の誕生(五五八)	憲法草案の発表と総選挙(五六一)	食糧対策(五六四)	涉外知事(五六六)
四 転換する地方制度	五七〇		

地方制度の改正(五七〇)	特別市制問題(五七二)	区域変更をめぐる問題(五七五)
--------------	-------------	-----------------

第三節 社会運動の再生

一 戦後労働運動の発端	五七七
-------------	-----

労働運動の復活(五七七)	メーデーと食糧メーデー(五七九)	民主戦線運動(五八三)
--------------	------------------	-------------

二 労働組合運動の発展	五八五
-------------	-----

総同盟と産別(五八五)	十月闘争から二・一ストへ(五八七)	民同運動の展開(五八九)
-------------	-------------------	--------------

三 農漁民運動の再生	五九〇
------------	-----

農民組合の組織化(五九〇)	農地改革と農民運動(五九二)	漁民運動の再生(五九三)
---------------	----------------	--------------

四 かわりゆく社会運動……………五九四

 ドッジ攻勢(五九四) レッドパージ(五九六) 労働行政(五九八)

第四節 教育の再建

一 占領下の教育……………六〇二

 戦時教育と占領軍指令(六〇二) 教育適格審査(六〇五) 奉安殿の撤去(六〇六) 神奈川県教員組合の結成(六〇八)

 平塚太平洋中学校長問題(六一二) 神奈川県教員組合の分裂(六一三) 鎌倉大学の設立(六一三)

二 新教育制度の発足……………六一五

 教育基本法の施行(六一五) 新制中学・高等学校(六一六) 新しい学区(六一八) 教育委員会の成立(六一三)

第五節 日本国憲法下の県政

一 新しい県政の担い手……………六二三

 四月知事選挙(六二三) 市町村長選挙(六二四) 地方議会議員選挙(六二五)

二 新憲法下の県政の構造……………六二六

 新憲法と県政(六二八) 地方自治法下の県の位置(六二九) 県と市町村(六三三)

 町内会・部落会の解散(六三三)

三 新県政の課題……………六三五

 公選知事就任演説(六三五) 民生・福祉(六三六) 労働行政(六三七) 観光行政(六三八) 警察制度(六三九)

 国の出先機関(六四二) 職員の問題(六四三)

四 復興の模索……………六四三

都市の復興(六四三) 旧軍用施設の転換(六四四) 都市と農村(六四六) 水資源(六四七) 災害復旧(六四八)

第六節 「経済復興」期の県政

一 県財政の状況……………六四九

「県財政の実態報告書」(六四九) 新税の創設(六五二) 電気ガス税をめぐる問題(六五三)

二 「経済復興」への道……………六五四

吉田内閣とドッジライン(六五四) 行政整理(六五五) 貿易(六五七)

三 行政手法の変容……………六六〇

占領政策の変化(六六〇) シャウブ勧告と事務再配分(六六一) 専門委員の調査(六六三) 広報活動(六六四)

公安条例(六六六)

四 講和後への動き……………六六七

地方選挙(六六七) 接収地解除への期待(六六九) 復興諸施策の軌道(六七〇) 新たな制度改正の動き(六七三)

第二章 高度成長期

第一節 県行政と市町村の再編

一 町村合併の社会的背景……………六七五

合併前史(六七五) シャウブ勧告(六七六) 自治体財政の危機(六七七) 町村合併促進法の成立(六七九)

二 町村合併の推進過程……………六八〇

県下の気運(六八〇) 県の合併計画(六八三) 全国一の達成率(六八四) 合併の実態(六八六)

三 町村合併をめぐる争論と紛争……………六八八

四	町村合併と高度成長	六九
	渋谷町の紛争と分村(六八)	
	泉地区の問題(六九)	
	その他の紛争と分村問題(六三)	
	紛争の原因(六五)	
	促進法の失効以後(六六)	
	町村合併の功罪(六六)	
	新市町村建設と高度成長(六九)	
	人口の急増と都市化の進展	
第二節	人口の急増と都市化の進展	七〇
一	県域工業開発の進行	七〇
	工業化路線の採用(七〇)	
	ためらいの中の市町村(七〇)	
	川崎市の繁栄(七〇)	
	都市再建にのりだす横浜(七〇)	
	根岸湾埋立てと漁民の反対(七〇)	
	盛り上がる工業化熱(七〇)	
二	都市化のなりゆき	七一
	貧しい住宅事情(七一)	
	放置される都市生活環境(七一)	
	首都圏のベットタウン化(七一)	
	近郊農業の変化(七一)	
	土地利用の混乱と水不足(七一)	
三	都市化社会と県政	七九
	定着した近代化の趨勢(七九)	
	モータリゼーションの進行(七九)	
	消費社会と都市の変貌(七九)	
	水資源のゆきづまりと水没住民(七九)	
	福祉優先を求める市町村と資源保護の課題(七九)	
	第三次総合計画の策定(七九)	
第三節	平和運動と基地反対闘争	七九
一	平和運動の展開	七九
	ストックホルム・アピール(七九)	
	全面講和要求運動(七九)	
	水爆マグロと死の灰(七九)	
	広がる原水爆禁止運動(七九)	
	母親運動の開始(七九)	

二 広がる基地反対闘争	七六三
占領下の基地問題(七六三)	
岸根基地反対闘争(七六三)	
基地闘争(七六三)	
三 六〇年安保闘争	七六三
エリコン・警職法反対運動(七六三)	
安保闘争の開始(七六三)	
安保闘争の展開(七六三)	
原潜寄港反対運動(七六三)	
県の対応(七六三)	
第四節 労働組合運動の展開	
一 地評の結成と全労神奈川の組織化	七五二
概観(七五二)	
地評の結成(七五二)	
電産ストと日産争議(七五二)	
全労神奈川の組織化(七五二)	
二 春闘労働組合運動	七五九
春闘の開始(七五九)	
生産性向上運動(七五九)	
鉄鋼争議(七五九)	
安保闘争と労働組合(七五九)	
三 労働組合運動の再編	七六五
春闘の拡大(七六五)	
中小企業争議(七六五)	
神奈川同盟の発足(七六五)	
劳政行政(七六五)	
第五節 工業化と公害問題	
一 取締体制から調整体制へ	七七三
ふたたびはじまった被害(七七三)	
産業の優先か健康の優先か(七七三)	
県条例と初期公害紛争(七七三)	
二 復興する京浜地帯の公害反対運動	七七〇
朝日製鉄熔鉱炉建設問題(七七〇)	
川崎のばい煙追放市民運動(七七〇)	
朝日製鉄の操業強行(七七〇)	
三 都市環境の悪化と市条例制定の要求	七六六

	工業立地の促進(七六〇)	悪化する都市環境(七六七)	健康被害の現実化(七六八)	市民の市条例制定要求(七六〇)	
	公害事前防止へ……………				七九三
	激変する県下の環境条件(七五三)	工業化のゆきづまりと住民(七五三)	住民生活防衛のための地方自治へ(七五五)		
四	公害事前防止へ……………				七九三
	第六節 拡大する教育条件				
	一 苦悩する教育……………				七九七
	二部授業の実態(七九七)	川崎市の二部授業(七九九)	基地と教育環境(八〇一)	環境浄化運動(八〇三)	
	二 勤評神奈川方式と高校教育……………				八〇四
	勤評誕生の背景(八〇四)	勤評神奈川方式(八〇六)	高教組の分裂(八〇八)	高校生急増対策(八一一)	
	私立学校への助成(八二四)				
	第三章 「工業化」以後				
	第一節 開発の中の社会問題				
	一 高度成長政策の帰結……………				八一九
	神奈川県の総合開発計画(八二六)	開発政策の矛盾と転換(八三三)	社会問題発生の背景(八三五)		
	二 悪化する生活環境……………				八二六
	住宅問題(八二六)	下水道と清掃問題(八三〇)	不足する教育施設(八三三)		
	三 荒廃する県土……………				八三七
	道路・交通問題(八三七)	災害に弱い県土(八三九)	乱開発と農業(八四三)		
目次	第二節 自治と住民参加				

一 住民福祉と地方自治……………八四五

地方自治の課題「すみよさ」(八四四) 横浜市の自治体改革(八四七) 都市問題と自治体(八五〇)

二 自治体経営と住民運動……………八五三

地域の再開発計画(八五三) 居住環境を守る住民の運動(八五五) 要綱行政と都市づくり(八五五) 自治体行政と住民運動(八五五)

三 地域住民と参加型自治……………八五九

地域福祉とボランティア活動(八五九) 参加型自治体の進出(八六一)

第三節 公害反対運動

一 公害行政先進地帯としての神奈川……………八六五

県の新条例体制(八六五) 横浜市の「公害防止協定」(八六七) 新設工業地帯と既設工業地帯の明暗(八七〇)

市民の啓蒙とその限界(八七一)

二 コンビナート公害と住民生活環境……………八七四

川崎市反公害住民運動のスタート(八七四) 公害対策基本法制定前後(八七六) 湘南のコンビナート進出反対運動(八七六)

硫酸酸化物環境基準と京浜地帯(八七九) 日本鋼管の扇島への再立地計画(八八二)

三 公害への憤り……………八八三

日常生活をとりまく有害物質(八八三) 環境をとった日本鋼管(八八四) 東京湾へドロ事件とカドミウム米(八八五)

公害病の告発(八八七)

四 良好な環境の回復に向かって……………八八八

良好な環境を求める住民(八八八) 汚染総量の削減(八八九) 県民を震撼させる未知の公害(八九〇)

回復の徴候と新たな課題(八九三)

第四節 自然・文化財保護運動

一 胎動する市民・住民の保全運動……………八九三

江の島観光開発と指定解除問題(八九三) 動きはじめた住民グループ(八九四) 鎌倉御宅宅造反対運動と風致保全(八九五)

散在孤立する住民運動(八九六)

二 「環境」から「自然生態系」へ……………九〇一

「相模湾を守ろう」から「神奈川自然保護連盟」へ(九〇二) 乱開発の進行と地域自治(九〇四)

公害・環境破壊と「自然を返せ」(九〇六)

三 自然と人間の共生する地域社会へ……………九〇九

自然への憧れと荒廃する都市(九〇九) 都市内部に自然を創造する(九二二) 高度成長下の都市化のつけ(九二四)

自然回復への闘いのはじまり(九二五)

第五節 住民運動の現段階

一 消費者運動の発生と背景……………九一七

消費者問題の背景(九一七) 消費者運動の発生と発展(九一九)

二 消費者運動の発展……………九二二

啓蒙期の消費者運動(九二三) 発展期の消費者運動——生活学校(九二四) 生活協同組合の運動(九二七)

三 石油パニック下の運動……………九二九

石油パニック(九二九) 消費者団体の活動(九三〇) 石油パニック以後(九三三)

四 消費者行政の展開……………九四

消費者保護基本法の成立(九三四) 神奈川県消費者行政(九三五) 石油パニックと県の対策(九三七)

県消費生活条例の制定(九三六)

むすび 「地方の時代」への模索

執筆分担一覧

年表

付表

度量衡換算表

現行市町村別旧村一覧

年号一覧表

あとがき

口 絵

大正自由教育の始まりをつげる尋常高等元街小学校校誌「学之窗」(横浜市立元街小学校蔵)

震災と同時に起きた横浜市の火災を示す図(「神奈川県震災誌附録」)

焦土となった横浜市街（『大震災写真画報』）

昭和恐慌下の世相

食事をする労働者（神奈川県匡済会蔵）

寿署内に正月用の餅と米の配給を受けに集まった人びと（県立文化資料館蔵）

戦意高揚をはかった雑誌・百人一首

・少年倶楽部・キング・愛国百人一首（津久井郡郷土資料館蔵）

出征兵士を送るために使われたタスキ・のぼりと弾よけとしてつくられたチョッキ（平本正義氏蔵）

平塚の戦災の様子を描いた電話局付近と焼夷弾の絵（杉山泰一氏蔵）

川崎市内の戦災状況（武藤光蔵氏蔵）

敗戦直後の住宅難と食糧難の状況（『KANAGAWA1945—1955』）

戦後県政で重要な役割を果たした内山岩太郎知事の『日記』（内山小太郎氏蔵）

戦後教育民主化政策の一つとして実施された教育委員の公選ポスター（永野勝康氏蔵）

人口増にともない都市は大きく変貌した

藤沢駅付近—一九六五ごろ（藤沢市文書館蔵）

同 —一九八二年二月現在（県史編集室蔵）

県庁屋上からみた鶴見・川崎の工場地帯（県史編集室蔵）

第一回「地方の時代」シンポジウム（神奈川県庁蔵）

装して
原 弘
(裏表紙・遊び紙のマークは県章)

はじめに

通史編の近代・現代は四巻からなり、そのうち、(1)と(2)を政治・行政編、(3)と(4)を産業・経済編に大別した。なお政治・行政編は広く社会及び文化・教育をもとりいれ、あわせて記述している。

本巻、政治・行政編²は、政治・行政編¹でとりあつかった明治前期から大正初頭までの記述をひきついで、第一次大戦下の県内の政治・社会状況から筆をおこし、一九七〇年代までを対象にすえている。そして、全体を総説と三編に分けて構成した。

総説は、大正と昭和の時代の神奈川県を時代の社会変化と政治の推移として、日本の近現代史の中で総体的にとらえ、各編の理解を助けるように記述した。

本論にあたる各編は、政治行政の展開と県民のそのときどきの生活とか、政治や社会への動きを主軸にすえ、社会状態、教育・文化等の状況をからめて叙述し、総合的に本県の発展の跡と現状を明らかにすることにつとめた。

第一編は「大正期」として、第一次大戦下の県内の政治状況や政治運動・社会改革とデモクラシーの影響のもとであられた労働運動をはじめとするさまざまな社会運動についてふれた。なお、ここでは、東京とならんで全国でもっとも大きな災害を受けた関東大震災について特に一章を設けてこれをあて、政治・社会問題の角度からあつかった。

第二編は「昭和前期」として、恐慌下の県内の諸相から、「準戦時」体制への道についての説明をこころみた。そして、日中戦争、太平洋戦争下の県民の動静を含めて、さまざまな統制や戦災による被害の実体についても言及した。

第三編は「現代」として、敗戦後から今日の神奈川県の実況をとりあげ、まとめてみた。この時期は、占領、民主化政策、制度改革など戦後の混乱と新しい時代への模索の跡を叙述した。また、その後の経済発展のなかでもたらされた諸問題、すなわち、環境・公害行政についてもふれ、時代の変化をも考慮して、そこで新しくくりひろげられた県民の動向を併記した。

むすびは、「通史編4・5を総括する『地方の時代』への模索」と題して、「地方」のもつ意味について神奈川県の実状にそくして検討してみた。